

出穂期は平年並！早生の穂肥は遅れずに！

- ・中干しの不十分な圃場が見受けられます。うわ根の発根を促進させるため、小ヒビが入る程度まで行き、登熟期間の稲体の維持につとめましょう。
- ・ **品種・圃場ごとの生育差が大きい**ので、穂肥の施用前には必ず幼穂を確認しましょう。
- ・ 県内各地で葉もち病の本田初発生が確認されています。早生品種等で発生が確認された場合は直ちに防除を実施しましょう。

1 生育状況 (平成22年6月30日現在) ～草丈は長め、葉色は濃く推移しています～

品 種	場所	移植	草 丈(cm)			茎 数(本/m ²)			葉 数(葉)			葉 色 (SPAD)		
			本値	前比	指比	本値	前比	指比	本値	前差	指差	本値	前差	指差
コシヒカリ			※ 各地区で配布されている生育状況調査の数値を参照してください。 ※											
こしいぶき														

(本値：本年値 前比：前年比 指比：指標値比)

2 早生の幼穂形成期・出穂期の予想と穂肥施用のめやす (注：稚苗 5/5 植で予想)

- ① 幼穂形成期・出穂期予想は6月30日の生育から予想しております。今後の気象状況により変動します。今後の情報にご注意下さい。
- ② 幼穂形成期以降、以前配布しました『品質向上必勝盤』で確認しましょう。
- ③ コシヒカリの幼穂形成期・出穂期予想等は次号でご確認をお願いします。

品 種 名	幼穂形成期	出穂期	1回目穂肥			2回目穂肥		
			出穂前日数	施用時期	窒素量 (kg/10a)	出穂前日数	施用時期	窒素量 (kg/10a)
ゆきん子舞	7/3～4	7/26～27	25～23	7/1～4	1～1.5	14	7/12～13	1～1.5
こしいぶき	7/4～5	7/27～28	23	7/4～5	1.0	14	7/13～14	1.5
わたぼうし	7/2～4	7/25～27	22～20	7/3～7	1～1.5	12～10	7/13～17	1～1.5
五百万石	7/2～3	7/25～26	20～18	7/5～8	1～1.5	12	7/13～14	0.5～1

※大豆跡では、生育状況にあわせて穂肥を調整しましょう。

穂肥の施用前には、必ず幼穂を確認しましょう

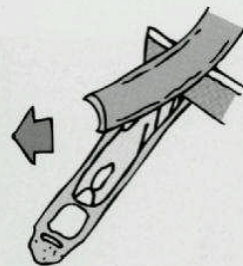
【幼穂長による出穂前日数のめやす：こしいぶき】

幼穂長 (cm)	0.02	0.1	0.13	0.2	0.5～1.0	4.0～6.0
出穂前日数 (日)	30	24	23	20	18	12

☆ ほ場内の平均的な株から最も長い茎を抜き取り測定。数株から採取し総合的に判断する。

【幼穂の長さを確認する】

(その1 カッターなどで割る)



3 カメムシ対策 (草刈り) の徹底 (発生状況 平年並、発生量 平年並)

- 各地域の病害虫調査でも畦畔・農道等の雑草が繁茂し大きいところでは、カメムシが確認されています。
- 雑草が結実しない間隔で草刈りを徹底しましょう。

4 補植苗の撤去を徹底

- 6月中旬以降いもち病発生好適条件が出現していることから早生品種等で発生を認めた場合は、直ちに防除を実施しましょう。
- 補植苗は、いもち病の発病原因となります。まだ放置してある圃場は**至急撤去**しましょう。